

二〇二五年度

問題冊子

国語	教科
国語	科目
14	ページ数

試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。

解答の書き方

1. 解答は、すべて別紙解答用紙の所定欄に、はっきりと記入すること。
2. 解答を訂正する場合には、きれいに消してから記入すること。
3. 解答用紙には、解答と志望学部及び受験番号のほかは、いつさい記入しないこと。

注意事項

1. 試験開始の合図の後、解答用紙に志望学部及び受験番号を必ず記入すること。
2. 試験終了時には、解答用紙の1ページ目を表にし、机上に置くこと。解答用紙は、解答の有無にかかわらず回収する。
3. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

訂正

国語

問題冊子 9ページ

傍線部が訂正箇所である。

〈注〉 1

(誤) 国鉄総裁の怪死事件―「下山事件」(昭和二十四年七月十五日)。

(正) 国鉄総裁の怪死事件―「下山事件」(昭和二十四年七月六日)。

〈注〉 2

(誤) ミタカー「三鷹事件」(昭和二十四年七月十七日)。

(正) ミタカー「三鷹事件」(昭和二十四年七月十五日)。

〔1〕

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

資本主義においてあらゆるものが商品となる。商品とは、ある製品や活動の価値（使用価値）に資本主義的な価値、つまり交換価値を注入することで現れる。商品は、最初から存在するのではなく、このような商品化によって作り出される。

商品化はどこで行われているのか。企業であれば、商品の企画会議であろう。そこではどのようなものをいくらかで売るかというだけでなく、どのような包装をし、どのようなタレントを起用し、どの媒体や場所で、どれくらいの期間広告するのかということまで含む議論がなされる。いや、企業の会議室だけでなく、商品化は現代生活の隅々にまで及んでいる。

とりわけ、資本主義が現在のところ成功を収めているのは、それが交換という経済システムであると同時に、文化的なシステムでもあるからである。そのことが、わたしたちの生活の隅々で商品化を引き起こす。たとえば、プロ・スポーツを見にいったときを考えてみよう。スタジアムやアリーナはネーミング・ライツを購入した企業の名前が付されている。選手やチアリーダーの身につけるユニフォームやコスチュームには、スポンサー企業の名前が入っている。試合前のファンサービスイベントや応援のために無料で配られるグッズにもスポンサー企業の名前が付いているし、その企業の商品が配布されることもある。試合前やハーフタイムの音楽もまたその企業のイメージソングであったりもする。スポーツ・カルチャーという文化活動は、商品売るために利用されているし、商品が文化を作り出している。

スポーツに限らず、資本主義は文化的生活に価格をつけ、特定の文化のなかで好ましい要素を見つけては、交換価値を付して販売する。①それによって、資本家や企業は、そのものに影響を及ぼし始める。

場所と商品化および消費の関係を、場所の痕跡から読み取ってみよう。二〇一〇年代末からタピオカ・ミルクティーブームが日本で起きた。街中には多くの店舗が作られた。消費者は若い女性がメインであったため、渋谷や原宿など若者の集まる場所や、この商品が中国由来のため横浜市や神戸市の中華街というような、特定の場所に店舗が作られた。とくにインスタ映える商品を提供する店舗には多くの消費者が押し寄せ、テイクアウトしてスマートフォンで写真撮影をし、投稿する。インスタ映え

する写真の撮り方の方法として、白いタイルの壁を背景にすることがスィッシュウ^⑦された結果、店舗の周辺にある白い壁にも人びとが足を運ぶ。このブームでは容器やストローの放棄が問題になった。神戸市の中華街では清掃活動を実施したり、ゴミ箱を増やしたりして対応した。こうしたことは、一定の区域の境界／秩序化である。タピオカ・ミルクティーに関わる特定の人と物が、場所の痕跡である。

現在、製造業ではなく、企業の本社やホテル業、富裕層などのユウチ^①のために、ほかの場所よりも安全で清潔で、性の多様性へ寛容であることを強調する都市が見られる。これらは場所の商品化である。同じように観光という娯楽産業において、さまざまな場所が商品化されてきた。それは猫の目のように変化する観光客の嗜好^{しこう}に沿うように、場所の「魅力」を発見し、作り出し、強調することで成立する消費の舞台である。かつて清潔で健康的な住環境を求めて郊外に居を構えていた富裕層を、都市の内部^{ジェントリ}に呼び込み、都市を再開発しようとするジェントリフィケーションも、場所の商品化の明確な例である。都市に彼らと呼ばむために、かつて都市内部に居住していた貧困層を追い払い、代わりにおしゃれなマンションやレストラン、カフェや衣服店などが建ち並ぶ。

ジェントリフィケーションは、都市のいいところ取りである。ニューヨークのマンハッタンでは一九七〇年代、それまで都市で利用価値のないと見なされていた古い建造物の内部を改装し、富裕層にそこに住むよう訴えかけ始めた。改修にはわざわざ古く見えるような高級木材が用いられた。こうした素材が富裕層の美的感覚を刺激する。このとき、都市の真ん中にある古い建造物に住むのが、おしゃれで文化的な生活なのだ^{クリティカルインフラストラクチャー}と富裕層に広告する批判的基盤が重要な役割を果たした。彼らは不動産業や飲食業、場合によっては都市行政と協働して、都市のさまざまな要素のなかから好ましいものをピックアップしては組み合わせ、場所を商品化する。こうして、都市は生産の舞台から、消費の舞台へと変貌していく。現在の東京都や大阪市のような大都市にそびえるタワー・マンションは、このような文脈で登場した。

利潤の最大化を図る資本主義は、合理的な判断に基づいた最善の活動を展開すると考えられてきた。しかし、その活動の内実はむしろ文化的なものに大きく依拠している。その一つがイデオロギーである。たとえば、性別やヒフの色^②、居住区によって能

力に差があるという考えはイデオロギーであり、これを用いて賃金を低く抑えてきた。アフリカ大陸、南アジアといった場所、学校や家庭といった場所を境界化し、そこで低賃金を正当化するイデオロギーを展開することで、資本主義は秩序を作り出してきた。

そしてまた、メディアや政府、警察を含む一連の文化的かつ社会的制度は、資本主義の経済的基盤に一役以上のものを買っ
②
て出した。たとえば、労働者が雇用条件の改善を求めて蜂起するとメディアが「暴動」と暴力的側面を強調し、それを押さえ込むために警察が動員される。その権力が宿を逆さに読む「ドヤ街」という、日雇い労働者の場所を境界／秩序化してきた。とりわけ、日本において企業がいつでも雇用関係を打ち切ることのできる非正規雇用の制度は、一九九九年の労働者派遣法改正ですべての職業に原則自由化され、二〇〇四年の改正では製造業にも適応された。これにより、ドヤ街で起きていた低賃金労働者の使い捨ては、日常生活のさまざまな場所に遍在するようになった。資本主義の経済基盤は、支配的な権力者の文化的制度によって支えられている。つまり、イデオロギーが資本主義によって作られるだけでなく、それを支えている。

消費活動は、資本主義の文化的側面をさらに映し出す。たとえば、わたしたちは衣服を機能性だけではなく、それが持つ象徴的な意味を考慮しながら選択する。つまり、性別、民族、年齢、^①コニンの有無、社会的な身分、職業、そして宗教などによって、素材、デザイン、色、丈の長さなどが区分されている。去年と今年のファッションに機能的には大きな違いがなくとも購入し続けるのは、合理性や機能性だけで消費活動が展開されるわけではないことを示している。たとえばファッション・アイコンやインフルエンサーが所有するさまざまな物を、自分も購入することで、自らが何者であるのかを確認するのである。機能性や居住快適性だけが、タワー・マンションの高層階の購入を決定づけるわけではない。特定の商品やサービスに意味や価値を与えるのは文化であり、それがジェントリフィケーションを引き起こしてきた。

このように、資本主義は、資本蓄積という自らの目的に合わせて、文化的生活を秩序づけることに成功した。^③特定の境界／秩序化によって商品としての場所が作られる。こうしたことは、わたしたちの日常生活のあらゆる場所で起こっている。

特定の企業によって様式化された資本主義的体制、すなわち企業資本主義は単に文化を商品化したのではなく、世界的な規模

で文化を改造している。これは、選挙で選ばれたわけでもない企業が、資本主義の文化的論理に沿って世界を秩序づけ、再国境化することができることを意味する。資本主義文化の広がりには、多くの利益をもたらす。雇用や新たな投資、新製品を購入する機会を提供する。しかし、その一方で、あまりに圧倒的な存在であるがゆえに、価値体系を変え、従来の政治から特定の人たち^④をハイジョしてしまうこともある。

（森正人『誰が場所をつくるのか——ポストヒューマニズム的試論』による。なお、本文を変更した箇所がある。）

問一 傍線部⑦⑧の片仮名を漢字に直せ。

問二 傍線部①「それによつて、資本家や企業は、そのものに影響を及ぼし始める」とあるが、どういふことが簡潔に説明せよ。

問三 傍線部②「資本主義の経済基盤は、支配的な権力者の文化的制度によつて支えられている。つまり、イデオロギーが資本主義によつて作られるだけでなく、それを支えている」とあるが、どういふことが説明せよ。

問四 傍線部③「特定の境界／秩序化によつて商品としての場所が作られる」とはどういふことが、簡潔に説明せよ。

〔2〕

次の文章は、昭和三十二年に発表された、武田泰淳「怪人物——行方不明はどこへ行った!——」である。これを読んで後の問いに答えよ。

四号室のMさんが行方不明になると、同じアパートに住む五人の家長たちは、首を集めて相談しました。青木君だけが、独身で、他の人はみな少くて二人、多いのは五人の子持です。

「青木君よ。キミが一ばん、Mさんとは親しかったんじゃないのかよ」と、右田爺じいさんはまず青木君を目標にする。爺さんばかりでなく、他の三人も青木君にジロリジロリと注目する。

「そうだな。そう言えばぼくがまアMさんとは、よく話してた方かも知れませんか」

「知れませんかじゃないよ。知ってんだろ、あんた。行方不明になった理由をさ」と、ガス会社の左手さんも、ムキになって質問する。

「知りませんよ、ぼくは、そんなこと」

「知らないとは言わせねえぞ。だって、あんたは、Mさんが家出した晩におそくまで、あの人と飲んでたってじゃないか」と——パイ機嫌の右田爺さんは大声でどなる。

「そうです。飲んだことは飲みましたけど……」悪い事でもしたように、青木君はそろえた膝小僧⑦をもじもじさせる。

「青木君。まア、君の気持もわかるさ。他人の秘密は、守ってやらなくちゃならない。どこにスパイがもぐりこんでるか知れんからな」組合の教宣部にいる左手さんは、臨時傭やといの新マイにいつてきかせるように、青木君の肩をなでた。「だれどこににいる五人は(君はむろんそうだが)みんな金回りがわるくてピーピーしてるが、正直もんだぜ。え、そうだろ。それとも君は、誰かこん中に、スパイでもいるというのかね」

「そんな、バカな」

「そうだろ。そんなら君は、君の狭い胸に、君の知ってる秘密をしまいこんでおかないで、大衆の前にヒレキしたらどうだ。お

れたち五人は、同じ階級の仲間じゃないか」

「それは、むろん、そうなんです」

「ダメだよ、この若い衆は。インテリ様なんだから。おれたちに腹プチ割った話なんだ、するもんか」と、爺さんは、にくにくしげに口をへしまげる。

そんな具合にして、行方不明の相談会が、青木君に不利に発展したについては、^①青木君の青年らしい、つまらない発言もわざわざいしたのでした。

彼はこう主張したのです。――

なるほど、Mさんの失踪はアパート居住者にとって、ひとごとでない重大問題だ。しかしほくらはこのさい、いかに多数の事件、おびただしい裁判が、行方不明になっているかを想起せねばならぬ。たとえば（と、青木君は^{（注）}国鉄総裁の怪死事件のほか、実にたくさんの実例をあげてみせた）であるからして、我らは、まずくも行方不明を続出させる、この社会そのものを、もっととシンケンに直視せねばならない」

「ヒエー、たまげた」と、爺さんはわざと仰天した風をして見せた。^②「お前さんはまた、えらくたくさん、実例を挙げて下さったもんだな。そんなにお前さんが、チョク視してるとは知らなかった。青木くんは、まるで行方不明の専門家じゃねえのかよ。その青木君が、どうしてまたMさんの行方不明にかぎって、こんなに知らん顔してるんだろ」

一同は爺さんのユーモアに、そろって爆笑しましたが、そのあと、シーンとしずまりかえって、まるで犯人はこの男だと、決定してしまったみたいに、青木君を見守ったのでした。

「そうかい。君はやっぱり、我々を相手にしないつもりなのかい」ストライキ破りに向って言うように、左手さんは言つてのけた。「それじゃ君は、M未亡人、いや失礼、Mさんの奥さんの所へでも行つて、コソコソ相談するがいいや」

困ったことに、M氏の奥さんは、評判の美人だったのです。

Mさんは、大学の講師、青木君はひるま会社につとめ、夜はその大学の生徒でしたから、青木君がMさんと親しくしたかった

のは言うまでもありません。

「人間が人間を、信頼できなくなっちゃ、おしまいだなア」問題の晩、憂うつそうにMさんは言った。いかにも淋さびしそうだったが、それ以外に何も、行方不明の原因らしきものを、青木君に語ったわけではない。

アパートじゅうで、一ばん熱心に、M氏の行方を知りたがっているのは、青木君と奥さんだ。二人は当然、力を合せてM氏を探さねばならない。しかしあの相談会があつてから、青木君は、美人のM夫人の部屋を訪ねにくくなつてしまったのです。ヘンな疑いをかけられ、奥さんにまで迷惑を及ぼしたくない。

奥さんの方では、どうしたつて青木君をたよりにする。

「信頼できるのは、あなただけよ。力になつてちょうだいね」などと言う。

頼まれれば、三度に一度は、奥さんの部屋へ行かねばならぬ。すると爺さんが、すぐ四号室のドアの前へ来て、耳をすます。廊下で立話している二人を見つけると、ニヤニヤ無遠慮に観察する。

「何だい、やつぱりそうだったのかい」と言う顔つきだ。

「あの若僧と、あのかみさんがいい仲になつたから、Mの旦那はとびだしたんだ」

いくら疑うたぐられても、友人としての義務は果さなければなりません。奥さんの代理で、大学の会計課、区役所、警察へも行く。するとかならず「キミは、Mさんの何なんだい」とたずねられる。人目に立つ奥さんと連れ立つてでも行こうものなら、「オヤ、こいつは一体何者だい」と不思議がられる。

したがつて、なるべく奥さんに近寄らないようにします。

「ヘン、わざとよそよそしくしてやがらア。そこが何よりの証拠だ」と、周囲でうわさされるのは我まんしてもよい。

だが、「青木さんのこと、Mは誰より信頼してたのよ。だから私、あなただけを頼りにしてたのに」と、奥さんその人から怨うらまれるのが何よりつらい。

「ええ、ここ二、三日、会社の夜業があつたもんで」

「おいそがしいのは、わかってます。だけど一日に一回ぐらい顔出して下さっても、いいじゃないの。口さきだけの、親友だったわけじゃないでしょ」

アパートの家長連中は、女房や妹や娘たちに、おごそかに訓戒する。^⑤「青木とつきあうんじゃないぞ。怪しい奴なんだから」

「おとなしそうな人なのに」と娘たちが反対する。

「バカ！ あいつが、Mの旦那を行方不明にした男なんだよ。今に見ろ。アパートじゅうの男を行方不明にしちまうぞ。その方の勉強を、専門にしている奴なんだ」

「ハハア、それで夜おそくまで電灯つけてるのね。おつかないア」

心配で痩せ細った奥さんに、栄養をつけてあげようと、ポークスの入った日に、上等牛肉を一包とどけた。それがまた、いけません。

「おかしいぞ。奴の手を出すのは、女ばかりじゃないね。ザクザク金をもつてるところ、怪しいぞ」二七札でも、造つていやしないかと怪しませる。

警察へも投書のハガキが投げこまれたらしい。密告があつたから、私服が職務上たずねてくる。青木君の他の部屋部屋も、回つて歩いて、メモをとる。隣の部屋なのに、奥さんから手紙が来た。「アナタガ、私ニヨソヨソシクスル原因ガ、ワカリマシタ。アナタハ夫ノ失踪ニ、関係ガアルニチガイアリマセン。アナタノコトデ、警官ニシラベラレマシタ」

次の日曜に、青木君は酒場で泥酔しました。^⑦

「ぼくは、怪しい男だろ。ねえ、ねえちゃん、そう見えるだろ」酔つた眼をすえて、彼は怪人物らしく、すごんで見せた。

「ぼくときあう男は、みんな行方不明になるそうだ。な、気をつけるよう。いいこと、教えてやろうか。ヘン、国鉄総裁を殺したのは、ぼくなんだ。^②ミタカもそうだ。^③松川もそうだ。汽車や電車がひっくりかえつたら、おれが犯人だと思つてくれ。どこ

かで火事が起きたら、おれさまが火をつけたんだ。ゴチャゴチャ言う奴は、みんなオートバイで轢きころしてやる！」

オートバイうんぬんだけは、ほんとの話です。どうやって手に入れたか、豪勢なオートバイが、青木君を乗せて、夜な夜な、

ものすごい勢いで街を突進することになったのです。^②スピード違反で、つかまっても、つかまっても、おそろしいスピードで「信頼号」は夜の路を走って行く。^③そして「行方不明になりてエエ!」という、青木君の悲痛な叫びが、夜風にちぎれながら、きこえてくるのです。

(筑摩書房版『武田泰淳全集 第五巻』により、省略した部分がある。)

〈注〉

- 1 国鉄総裁の怪死事件―「下山事件」(昭和二十四年七月十五日)。
- 2 ミタカ―「三鷹事件」(昭和二十四年七月十七日)。
- 3 松川―「松川事件」(昭和二十四年八月十七日)。

問一 傍線部㉗㉘の漢字の読みを平仮名で書け。

問二 傍線部①とあるが、語り手はどのようなことを「青年らしい、つまらない発言」とみなしているのか、具体的に説明せよ。

問三 傍線部②とあるが、ここでなぜ「青木君」を乗せたオートバイが「信頼号」と呼ばれているのか、詳しく説明せよ。

問四 傍線部③とあるが、「行方不明になりてエエ!」と青木君が叫ぶのはなぜか、詳しく説明せよ。

〔3〕

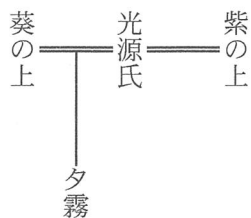
次の文章は、『源氏物語』野分巻の一節である。ある年の秋、光源氏（大臣）と妻たちが住む六条院を、激しい野分（台風）が襲つた。そこで、見舞いに訪れた光源氏の息子夕霧（中将の君）が、はからずも父の妻である紫の上を垣間見て、恋心を抱くようになる。この場面を読んで、後の問いに答えよ。

南の殿（注1）にも、前裁（せんさい）つくろはせたまひけるをりにしも、かく吹き出でて、もとあらの小萩（注2）はしたなく待ちえたる風のけしきなり。折れ返り、（注3）つゆもとまるまじく吹き散らすを、すこし端近くて見たまふ。大臣は、姫君の御方におはしますほどに、中将の君参りたまひて、東の渡殿（わたどの）の小障子（こさうじ）の上より、妻戸（つまど）の開きたる隙（ひま）を何心もなく見入れたまへるに、女房のあまた見ゆれば、立ちとまりて音もせで見る。御屏風（びよぶ）も、風のいたく吹きければ、押したたみ寄せたるに、見通しあらはなる廂（ひさし）の御座（おまし）にゐたまへる人、ものに紛るべくもあらず、気高きよらに、さとにはふ心地して、春の曙（あけぼの）の霞の間より、おもしろき権桜（かみざくら）の咲き乱れたるを見る心地す。あぢきなく、見たてまつるわが顔にも移り来るやうに、愛敬（あいぎやう）はにほひ散りて、またなくめづらしき人の御さまなり。御簾（みす）の吹き上げらるるを、人々押へて、いかにしたるにかあらむ、うち笑ひたまへる、いといみじく見ゆ。花どもを心苦しがりて、え見捨てて入りたまはず。御前なる人々も、さまざまものきよげなる姿どもは見わたさるれど、目移るべくもあらず。（注4）大臣のいとけ遠くはるかにもてなしたまへるは、かく見る人ただにはえ思ふまじき御ありさまを、至り深き御心にて、もしかかることもやと思ふなりけり、と思ふに、けはひ恐ろしうて、立ち去るにぞ、西の御方より、内の御障子（みさうじ）ひき開けて渡りたまふ。（注5）「いととうたて、あわたたしき風なめり。御格子（みかうし）おろしてよ。男（おとこ）どもあるらむを、あらはにもこそあれ」と聞こえたまふを、また寄りて見れば、もの聞こえて、大臣もほほ笑みて見たてまつりたまふ。親とおおぼえず、若くきよげになまめきて、いみじき御容貌（みかたち）の盛りなり。女もねびととのひ、飽かぬことなき御さまどもなるを身にしむばかりおぼゆれど、この渡殿（わたどの）の格子も吹き放ちて、立てる所のあらはになれば、恐ろしうて立ち退きぬ。（注6）

《注》

- 1 南の殿―紫の上の御殿。
- 2 はしたなく待ちえたる風のけしきなり―小萩にとつても激しすぎる風であるということ。
- 3 すこし端近くて見たまふ―室内の外に近い所(廂)から庭を眺める紫の上の様子。
- 4 姫君の御方―明石の姫君の居所。
- 5 東の渡殿の小障子の上より―紫の上のいる寢殿に東から通じる渡殿の衝立ついたての上から。
立ちとまりて音もせで見る―以下、垣間見る夕霧の視点。
- 6
- 7 人―紫の上。
- 8 人々―女房たち。
- 9 西の御方より、内の御障子ひき開けて渡りたまふ―光源氏が、西側の明石の姫君の居所から、襖ふすまを開けて紫の上のもとに戻ってきた。
- 10 また寄りて見れば―以下、再び垣間見る夕霧の視点。
- 11 この渡殿の格子も吹き放ちて―夕霧が立っている東の渡殿の格子も風で開いて。

《系図》



問一 傍線部①「つゆもとまるまじく」、②「あらはにもこそあれ」、③「飽かぬことなき」を現代語訳せよ。

問二 傍線部①「春の曙の霞の間より、おもしろき権桜の咲き乱れたるを見る心地す」とは、どのようなことを喩えた表現か、説明せよ。

問三 傍線部②「大臣のいとけ遠くはるかにもてなしたまへるは、かく見る人ただにはえ思ふまじき御ありさまを、至り深き御心にて、もしかかることもやと思すなりけり」とあるが、夕霧は光源氏が自分を紫の上から遠ざけていた理由をどのように理解しているか、説明せよ。

問四 傍線部③「恐ろしうて立ち退きぬ」とあるが、夕霧は何を恐れているのか、説明せよ。

問五 夕霧が光源氏の妻である紫の上に恋心を抱くことは、この物語に描かれたある関係性を繰り返す構図となる。その関係性について説明せよ。

〔4〕

次の文章は、前漢時代の賈誼が秦の過ちについて論じたものである。これを読んで、後の問いに答えよ。（設問の都合で、送り仮名を省いたところがある。）

秦王足^①レ己而不^レ問、遂^②過而不^レ變。二世受^③レ之、因^④而不^レ改、暴虐^⑤以

重^⑥禍。子嬰孤^⑦立無^⑧親、危弱^⑨無^⑩輔。三主之惑^⑪、終身不^⑫悟。其亡

不^⑬亦宜^⑭乎。當^⑮此^⑯時也、世^⑰非^⑱無^⑲深謀遠慮知^⑳化之士也。然^㉑所以^㉒

不^㉓敢^㉔尽^㉕忠、弘^㉖過者、秦俗多^㉗忌諱^㉘之禁也。忠言未^㉙卒^㉚於口、而身

為^㉛戮没^㉜矣。故使^㉝天下之士傾^㉞耳而聽^㉟、重^㊱足而立^㊲、闔^㊳口而不^㊴言。

是以三主失^㊵道、而忠臣不^㊶諫、智士不^㊷謀也。天下已^㊸乱、奸臣不^㊹

上^㊺聞^㊻。豈^㊼不^㊽悲哉。先王知^㊾壅蔽^㊿之傷[㋀]国也。故置[㋁]三公・卿・大夫・士、

以[㋂]飾[㋃]法、設[㋄]刑、而天下治[㋅]。其彊[㋆]也、禁[㋇]暴誅[㋈]乱、而天下服[㋉]。其弱[㋊]也、

五^{〔注14〕}霸征^{シテ}而諸侯從^フ。其削^ノ也、内^ハ守^リ外^ハ附^{〔注15〕}而社稷^{〔注16〕}存^ス。故秦之盛^{シナル}也、
 繁^{シゲクシ}法^ヲ嚴^{シクシテ}刑而天下震^フ。及^{ビテ}其衰^{フルニ}也、百姓怨^{ウラムミテ}而海内^{ソモク}叛^ク矣。

（『新書』）

〔注〕

- 1 秦王——秦の始皇帝のこと。
- 2 二世——秦の二世皇帝。
- 3 子嬰——秦の始皇帝の孫で、二世皇帝の死後、秦王に立てられたが、まもなく劉邦^{リョウ}に降伏し、秦は滅亡した。
- 4 輔——補佐する臣下。
- 5 知化——時勢の変化を知る。
- 6 忌諱——言動を忌みはばかる。
- 7 戮没——処刑して殺す。
- 8 重足而立——両足をそろえて立つ。恐れ慎むさま。
- 9 奸臣——よこしまな臣下。
- 10 上聞——君主に報告する。
- 11 壅蔽——ふさぎ覆うこと。
- 12 其——ここでは特に周王朝を指す。
- 13 誅——討伐する。
- 14 五霸——春秋の五霸。春秋時代の有力な諸侯で、周の王を奉戴した。
- 15 附——有力な諸侯に付き従う。
- 16 社稷——国家のこと。ここでは周王朝を指す。

問一 傍線部①・②の読みを、送り仮名を含めて、すべて平仮名で記せ。

問二 傍線部①を現代語訳せよ。

問三 傍線部②を書き下せ。なお「深謀遠慮」には送り仮名を付けなくて構わない。

問四 傍線部③とあるが、そのような状態になったのはなぜか、説明せよ。

問五 傍線部④はどういうことか、説明せよ。